

Agent Orange

背景

米国軍は、米国および連合軍の南ベトナムの密林地帯における戦争準備の一環として、軍用(戦術用)除草剤を開発および使用し、戦術的な目的で群衆を減らそうと試みました。なかでも一般的なのは、Agent Orange(エージェント・オレンジ)でした。米国の軍事研究により、Agent Orangeが開発され、この製品は、戦争中の戦術的使用のみを目的とした、厳密な軍事仕様に準拠して独自に生産されていました。

1950年のDefense Production Act(国防産業法)の施行のもと、Agent Orangeを政府へ供給した企業には、ザ・ダウ・ケミカル・カンパニー、モンサント社、ハーキュリーズ社、ダイヤモンド・シャムロック社、ユニロイヤル社、トムソン・ケミカルズ・コーポレーション、トムソン・ハイワード・ケミカル・カンパニー社が含まれています。Agent Orangeは、商用としては一度も生産されたことはありません。

ダウの見解

ダウは、ベトナムで従軍されたすべての人々に、そして、戦争の影響を受けたすべての人々に対し、最大の敬意を表明します。

米国政府は、交戦国として、Defense Production Act(国防生産法)に基づき、多数の企業にAgent Orangeの生産を呼びかけました。政府は、Agent Orangeの生産方法、また、次いで、その輸送、保管、および使用についても規定しました。

Agent

Orangeの使用を含む、歴史的なすべての戦時中の問題は、米国政府、ベトナム政府、および連合軍間で適切に解決する問題です。米国政府は、この問題に取り組む専用の部を持ち、また、米国およびベトナム政府間の連携がさまざまな場面にて続けられています。

、ベトナム戦争以降、Agent

Orangeの科学的調査が今日まで行われています。非常に多数の人体証拠において、退役軍人の疾患の原因がAgent Orangeであると確認されていません。